

## 大学発マイクロ波論文特集の発行にあたって



大学発マイクロ波論文特集編集委員会

委員長 真田 篤志

大学発マイクロ波論文特集の発行は、2004年12月から数えて12回目の節目を迎えた。世界中で数多くの学術雑誌が出版される中、大学の独創的な基礎研究及び応用研究を和文誌で幅広くタイムリーに紹介するという本特集の趣旨は、著者と読者のニーズと合致し、ここまで続いてきたのではないかと考える。

本特集へは、2編の招待論文を含む論文15編とレター4編の計19編が掲載されている。採択率は招待論文を除いて57%であった。テーマは、マイクロ波能動素子、受動素子及びシステム、アンテナ、材料・評価、に加えて無線電力伝送やメタマテリアルなど近年の研究動向が反映された幅広い内容である。また、2編の招待論文は、いずれもマイクロ波の応用を見据えながらもその物理的・数学的な礎を据えるもので、まさに大学発マイクロ波論文特集にふさわしいものとなっている。

現在大学研究は、既存の学術区分の分野のみならず、これまでにはなかった新しい分野の創出や異分野に跨る学際的な分野の開拓が求められている。マイクロ波の研究は、元来、電磁気学を基にした物理現象か

ら通信・非通信の工学応用までの融合が進んでいる領域で、例えばこれまでも半導体の技術的革新や携帯電話などの無線通信の普及という社会的要請をきっかけに新分野を開拓し成熟させてきたという経緯と実績がある。このマイクロ波分野において本特集が大学からのユニークな研究成果を発信し、新しい学術領域の開拓に貢献するとともに、今後もその役割を果たしてゆくことを期待している。

最後に、本特集の企画・発刊にあたり、日々の研究成果をまとめ論文投稿頂いた著者、査読及び編集に携わった委員、学会事務局の方々に深謝する。

平成27年11月11日web公開

真田 篤志 (正員：シニア会員) 平1岡山大・工・電子卒。平3同大・工学研究科・電子工学専攻修了。平6同大・自然科学研究科・博士課程修了。平6, 14 UCLA客員研究員。平16-17 ATR客員研究員。平17 NHK技研特別研究員。平23より山口大学教授。マイクロ波帯の磁性、超伝導、人工材料と変換電磁気学の研究に従事。現在IEEE MTT-S AdCom Member。IEEE MTT-S R10 Coordinator。IEEE MTT-S Japan Chapter Vice-Chair。元IEICE Trans. on Electronics/ELEX Assoc. Editor。IEEE/EuMA会員。博士 (工学)。

### 大学発マイクロ波論文特集編集委員会

委員長	真田 篤志
幹事	堀井 康史・加保 貴奈
委員	上田 哲也・岡部 寛・篠原 真毅・鈴木 恭宜
	陳 春平・津留 正臣・豊田 一彦・堀部 雅弘
	清水 隆志